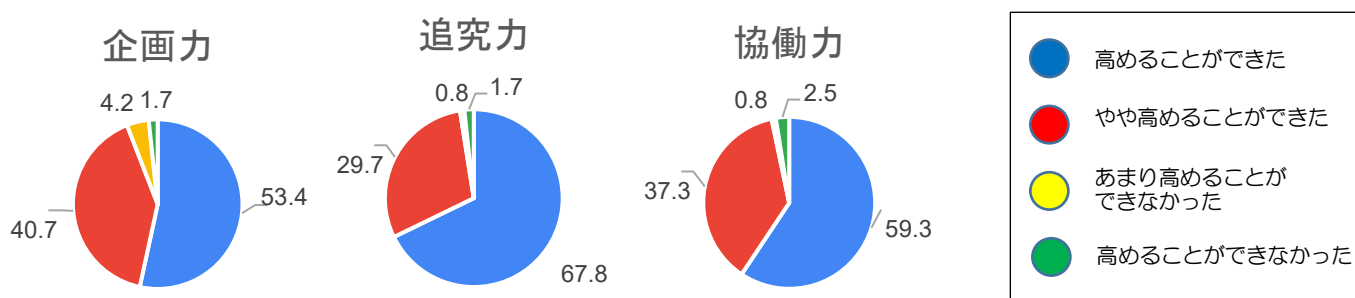


～第1回中高シンポジウム～

- ◆実施日：5月28日（木）7限
- ◆参加者：天城中学3年生、天城高校理数科1年生（計159名）
異校種間の科学的探究スキルの継承を目的に、高1生と中3生が12会場に分かれ、探究活動や理数科の特色や高校生活などをテーマに話し合いが行われました。



<アンケート結果> 企画力 94.1% 追究力 97.5% 協働力 96.6% が肯定的意見！



<中学3年生の感想から>

「高校生活のリアルな姿や課題研究の具体的な進め方を知る貴重な機会」

～課題研究について～

- ・「**ディスカッションが命**」であると再認識し、先生や他者との対話の重要性を学んだ生徒が多くみられた。
- ・**実験は夏休み前など早めに着手し、大変な論文作成に余裕を持って臨むべきだ**という具体的な見通しが得られた。
- ・研究がうまくいかなくても、それを「**失敗**」ではなく「**新しい発見**」と捉える前向きな姿勢を学んだ。

～進路・学習について～

- ・理数科の選択基準は「得意・不得意」よりも「**理数系科目が好きかどうか**」が重要であると教わった。
- ・高校生の勉強量や宿題の多さに驚きつつも**予習・復習の習慣化**や**睡眠時間の確保**の大切さを痛感した。
- ・先輩からの実体験に基づくアドバイスにより、漠然としていた高校生活や課題研究への不安が解消され、**モチベーションが向上した**という回答が目立った。

<高校1年次生の感想から>

「後輩に教えることを通じて**自己の振り返りと言語化の機会**」

- ・後輩にアドバイスをすることで、**自分の考えを改めて整理**することができ、それが現在の**高校での課題研究にも応用できる**と気づいた。
- ・自分の苦勞や経験を言語化したことで、今後の活動に活かせるヒントを見つけた。
- ・中学生と初めて交流し、悩みを聞くことで自分の経験を懐かしくと思い出す良い機会になった。
- ・中学生からパソコン操作を教えてもらうなど、相互の学びもあった。

□まとめ

中学生にとっては「高校生活のリアル」を知ることによって学習意欲と探究へのモチベーションを高める場となり、高校生にとっては「自身の歩みの再確認」と「メタ認知の向上」を促す場となりました。